

外為マンスリービューⅠ 北米編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/11/01

米大統領選がヤマに

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	5年連続月足陽線を期待 予想レンジ: 102.500~107.500円	2-3
<u>カナダ/円</u>	➡	OPEC総会を注視 予想レンジ: 76.000~80.500円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



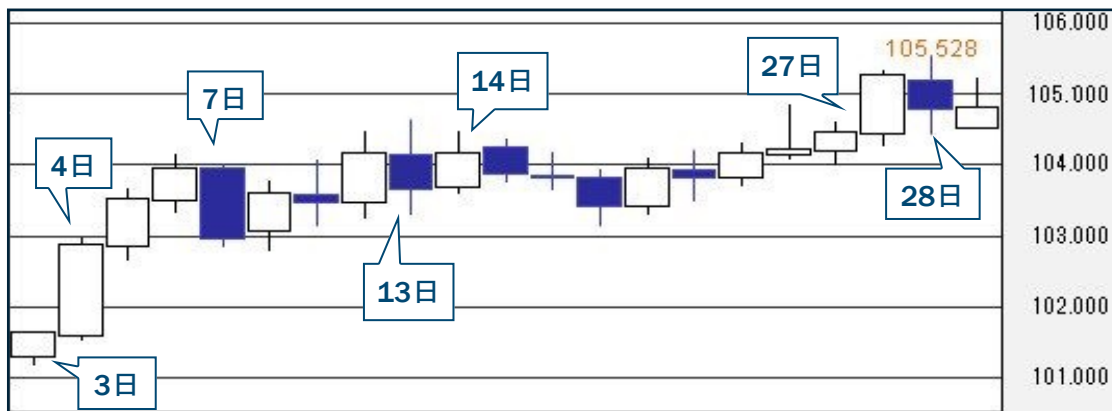
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ドル/円 10月の推移

USD/JPY

10月のドル/円相場は101.209～105.528円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.4%の上昇(ドル高・円安)となった。上旬には1.60%台を割り込む場面もあった米10年債利回りが大きく上昇。これが日米金利差の拡大に繋がリドル/円相場を押し上げた。9日および19日の米大統領選候補者討論会などを経てトランプ・リスクが後退する中、米連邦準備制度理事会(FRB)による年内利上げ観測に加え、原油価格の上昇や欧州諸国の長期金利上昇も米長期金利の上昇に影響した。28日には、米10年債利回りが約5カ月ぶりの高水準となる1.87%台に上昇する中、ドル/円も約3カ月ぶりに105.50円台の高値を付けた。



四本値

OPEN	101.311
HIGH	105.528
LOW	101.209
CLOSE	104.820

3日	9月日銀短観は大企業製造業業況判断DIが6と予想(7)を下回り、大企業非製造業業況判断DIは18と予想どおりの結果となった。一方、米9月ISM製造業景況指数は51.5と予想(50.4)を上回った。これらを受けてドル高・円安に振れた。
4日	ラッカー・メリッチモンド連銀総裁「現在の政策金利は極端に低い」「過去の経験から現在の金利は少なくとも1.5%になっているべき」などと発言。また、一部報道で欧州中銀(ECB)内では量的緩和の段階的縮小(テーパリング)の必要性においてコンセンサス形成が近いと報じられた事から独・仏長期金利が上昇した。これらが米長期金利の押し上げに繋がると、日米金利差拡大の思惑からドル買い・円売りが活発化した。
7日	米9月雇用統計は、非農業部門雇用者数15.6万人増、失業率5.0%、平均時給前月比+0.2%といずれも予想(17.2万人増、4.9%、+0.3%)に届かず冴えない結果となった。これを受けてドル売りが活発化すると103円台を割り込んで下落した。
13日	中国9月貿易収支で同国の輸出が大幅に減少した事が明らかとなり、市場はリスク回避に傾き、円買いが優勢となった。そうした中、相場の反応は限られたが米新規失業保険申請件数は24.6万件と43年ぶりの低水準に並ぶ好結果となった。
14日	アジアから欧州市場にかけて株高基調となり円安が進行。NY市場に入り、米9月小売売上高が予想通りながら+0.6%と高い伸びを示したほか、米9月生産者物価指数が前月比+0.3%と予想(+0.2%)を上回った事からドルが買われると104.40円台まで上昇した。
27日	欧州連合(EU)離脱決定の影響を反映した英7-9月期国内総生産(GDP)・速報が予想を上回った事から、英中銀(BOE)による追加緩和観測が後退。英長期金利上昇の影響がユーロ圏諸国にとどまらず米国債にも波及する中、対円ではドル高が進行して7月29日以来の105円台回復となった。なお、米9月耐久財受注は前月比-0.1%と予想(±0.0%)を下回ったが、変動の大きい輸送用機器を除いた受注額は同+0.2%と予想通りの伸びとなった。
28日	米7-9月期GDP・速報は前期比年率+2.9%と前期の+1.4%から加速。市場予想(+2.6%)を上回る経済成長となった。内訳の個人消費が前期比年率+2.1%と予想(+2.6%)を下回って減速した事などから一時弱含む場面もあったが、ドル高基調は変わらず105.528円まで上値を伸ばした。ところが、米大統領選の民主党候補ヒラリー・クリントン氏が國務長官時代に私用メールを公務で使用していた問題について捜査を再開すると米連邦捜査局(FBI)が発表。これを受けて米国株が上げ幅を失い米長期金利が低下すると、週末を控えた手仕舞いの動きと相まってドル売り・円買いが活発化した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.7698%
HIGH	0.8962%
LOW	0.7698%
CLOSE	0.8409%

米10年債利回

OPEN	1.5979%
HIGH	1.8771%
LOW	1.5910%
CLOSE	1.8255%

日経平均

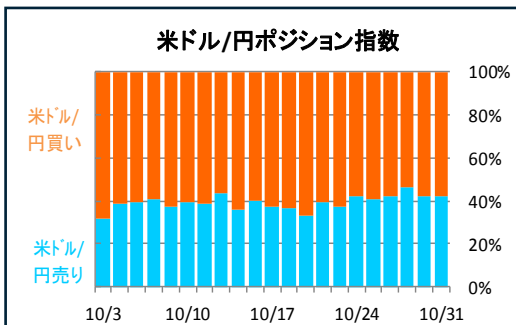
OPEN	16566.03
HIGH	17461.03
LOW	16554.83
CLOSE	17425.02

NYダウ平均

OPEN	18279.60
HIGH	18399.96
LOW	17959.95
CLOSE	18142.42

10月のポジション動向

11月の日・米注目イベント



- ・日銀金融政策決定会合(1日)
- ・10月米ISM製造業景況指数(1日)
- ・10月米ADP全国雇用者数(2日)
- ・米FOMC政策金利発表(2日)
- ・10月米ISM非製造業景況指数(3日)
- ・9月米貿易収支(4日)
- ・10月米雇用統計(4日)
- ・米大統領選挙(8日)
- ・7-9月期日本GDP・1次速報(14日)
- ・10月米小売売上高(15日)
- ・10月米鉱工業生産(16日)
- ・10月米消費者物価指数(17日)
- ・10月米住宅着工件数(17日)
- ・10月米中古住宅販売件数(22日)
- ・10月米新築住宅販売件数(23日)
- ・10月米耐久財受注(23日)
- ・10月日本消費者物価指数(25日)
- ・7-9月期米GDP・改定値(29日)
- ・11月米消費者信頼感指数(29日)

11月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

11月のドル/円相場はこれまで4年連続で上昇している。5年連続の上昇となるか、あるいは5年ぶりの下落となるか注目される。数あるイベントの中で最大の見どころは11月8日の米大統領選だろう。依然としてクリントン候補優位と見るが、米連邦捜査局(FBI)が同候補の国務長官時代の私用メール問題で捜査を再開したと発表した事で、その支持率は低下している。もし対立のトランプ候補が逆転で大統領に就任となれば、市場は拒否反応を起こす可能性が極めて高い。結果が判明する翌9日のアジア市場は、6月24日の英欧州連合(EU)離脱(ブレグジット)決定の再現となり、大幅な株安・円高が進行する事になるだろう。クリントン候補もドル安志向が強い事から、たとえ新大統領に決まってもドル/円の上昇は限定的との見方もあるが、「トランプ・リスク」が回避されたとの見方に立てば、短期的にせよ株高・ドル高で反応する公算が大きいと思われる。クリントン大統領誕生なら、米連邦準備制度理事会(FRB)による12月利上げの確度が高まる事もドル高を後押しするだろう。また、大統領選と同時にされる米議会選挙の結果も、来年以降の議会運営を見通す上で注目される。(神田)

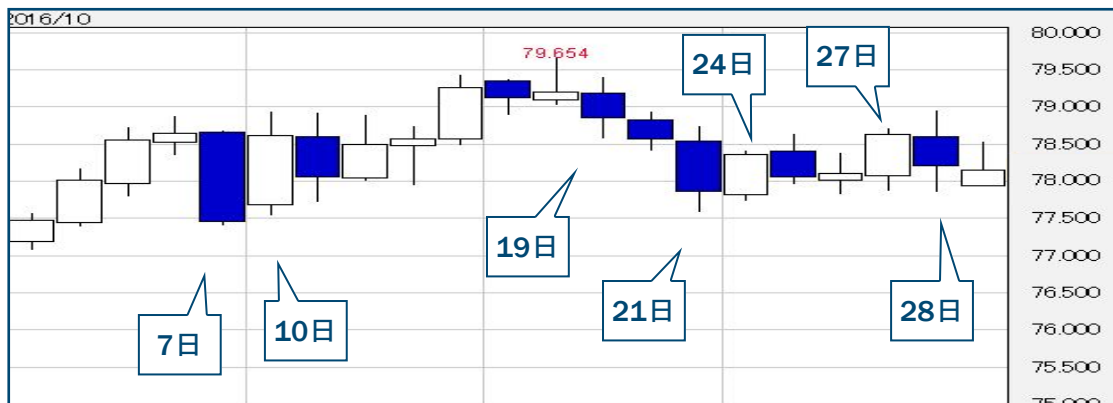
(予想レンジ: 102.500~107.500円)

カナダ/円 10月の推移

CAD/JPY

10月のカナダ/円相場は77.099～79.654円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.1%の上昇（カナダドル高・円安）となった。

9月末に石油輸出国機構（OPEC）が予想外の減産合意を発表した事を受け、NY原油先物が10月に入っても堅調に推移すると、18日に79.654円まで値を上げた。ただ、その後は協調減産の実現性に懐疑的な見方が広がった事が重石となり、上げ幅を縮小。加中銀（BOC）理事会でのカナダの経済成長見通し引き下げなども重石となった。もっとも、全体的に原油相場に一喜一憂する展開が目立った事から、月の値幅は約2.6円と現時点での今年最小を記録した8月（約2.2円）以来の小動きであった。



四本値

OPEN	77.197
HIGH	79.654
LOW	77.099
CLOSE	78.161

7日	加9月雇用統計は、失業率が事前予想通り7.0%となったものの、就業者数が予想（0.75万人増）を大きく上回る6.72万人増となった。これを受けてカナダ/円は一時78.665円まで上昇。ただ、ロシアが8～13日にトルコで行われる産油国の会議について、9月に決定した減産の履行方法で合意に至らないとの見方を示した事などからNY原油先物が下落すると、77.421円まで反落した。
10日	プーチン露大統領が「（原油について）ロシアは増産凍結、もしくは減産の用意がある」と発言。これを受けて原油先物が上昇するとカナダドル買いが優勢となり、78.937円まで値を上げた。
19日	BOCは理事会で政策金利の据え置き（0.50%）を決定。その後の声明でカナダの2016年のGDP見通しを1.1%、2017年は2.0%と7月時点（1.3%、2.2%）から引き下げ、インフレ見通しは16年が1.5%、17年は2.0と同（1.6%、2.1%）と下方修正した。これらを受けてカナダ/円は下落した。
21日	加8月小売売上高が前月比-0.1%、自動車を除くと同±0.0%と予想（いずれも+0.3%）を下回った。同時刻に発表された加9月消費者物価指数は前年比+1.3%、コア・同+1.8%（予想：+1.4%、+1.8%）となった。前年比が予想を下回った事からBOCの追加緩和観測が浮上し、カナダドル売りが強まった。
24日	ポロズBOC総裁が「低金利における金融政策の効果は小さい」などと発言。市場で追加緩和観測の後退と受け止められ、カナダドル買いが強まった。
27日	「サウジアラビアやOPEC加盟の湾岸諸国がピーク時から4%減産する意向をロシアに伝えた」とする報道を受けてNY原油先物が一時50ドル台を回復すると、カナダ/円は78.719円まで上昇した。
28日	OPEC専門家会合で9月に暫定合意した減産の詳細を巡り協議したが意見の一致が得られなかった事が明らかとなり、NY原油先物が一時48.40ドル台まで急落。米大統領候補のクリントン氏のメール問題再捜査を受けたリスク回避ムードも重石となり、カナダ/円は77.873円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

加10年債利回り

OPEN	1.007%
HIGH	1.260%
LOW	0.979%
CLOSE	1.196%

N Y 原油

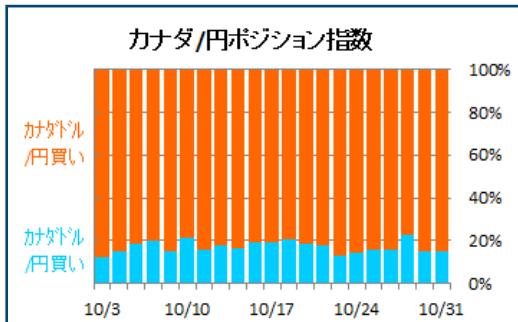
OPEN	48.04
HIGH	51.93
LOW	46.63
CLOSE	46.86

NYダウ平均

OPEN	18279.60
HIGH	18399.96
LOW	17959.95
CLOSE	18142.42

10月のポジション動向

11月のカナダの注目イベント



- ・8月加GDP(1日)
- ・9月加貿易収支(4日)
- ・10月加雇用統計(4日)
- ・10月加Ivey購買部景況指数(4日)
- ・10月加住宅着工件数(8日)
- ・9月加新築住宅価格指数(10日)
- ・10月加消費者物価指数(18日)
- ・9月加小売売上高(22日)
- ・7-9月期加経常収支(29日)
- ・7-9月期、9月加GDP(30日)
- ・OPEC総会(30日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

11月の見通し

11月も、原油相場の動向に注目したい。カナダ/円相場は9月末から1ヵ月以上に渡り原油相場に一喜一憂する展開が続いており、30日のOPEC総会で9月に決定した減産合意の詳細が決定されるかが焦点となるだろう。先月28日にイランが暫定合意の減産枠の除外を求めた事や、先月末に実施されたOPEC専門家会合で詳細が決定されなかった事などから、減産で合意できないとの見方が根強い。そうした中、総会が近づくにつれて原油相場が神経質に推移するようならば、カナダ/円は不意の乱高下への備えが必要になるだろう。先月に続き、関連報道に気を配る必要があるだろう。

なお米大統領選(8日)について、クリントン・トランプ両候補の接戦が続いており、結果が判明するまで予断を許さない。仮にトランプ候補が勝利するようならば、カナダ/円相場の重石となる可能性が高いので注意が必要だろう。(川畑)

(予想レンジ: 76.000~80.500円)